

2011年8月期 第3四半期業績 及び通期見通し

堂前 宣夫

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員

1

堂前です。

2011年8月期 第3四半期業績、及び
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第3四半期決算概要	P3	～	P14
II. 2011年8月期通期業績予想	P15	～	P18
III. ご参考資料	P19	～	P24

【資料文中のグループ事業の表示について】

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

(2011年8月期以降)

国内ユニクロ事業：株式会社ユニクロ(靴事業含む)の数値が表示されています。

海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、ジーユー事業、キャビン事業が含まれています。

(2010年8月期まで)

国内ユニクロ事業：日本で展開するユニクロ事業の数値が表示されています。

海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

国内関連事業：ジーユー事業、靴事業、キャビン事業が含まれています。

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業が含まれています。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

1Q~3Q 売上高 : 6,520億円 (前年同期比 ▲1.1%)
 9ヶ月累計 営業利益 : 1,045億円 (前年同期比 ▲15.3%)

単位: 億円

	1Q~3Q (2010/9~2011/5)			3Q (2011/3~2011/5)		
	9ヶ月累計	前年実績	前年同期比	3ヶ月実績	前年実績	前年同期比
売上高 (売上比)	6,520 100.0%	6,590 100.0%	▲1.1%	1,946 100.0%	1,880 100.0%	+3.5%
売上総利益 (売上比)	3,391 52.0%	3,441 52.2%	▲1.5% (▲0.2p)	1,007 51.7%	978 52.0%	+2.9% (▲0.3p)
販管費 (売上比)	2,345 36.0%	2,206 33.5%	+6.3% (+2.5p)	782 40.2%	742 39.5%	+5.3% (+0.7p)
営業利益 (売上比)	1,045 16.0%	1,234 18.7%	▲15.3% (▲2.7p)	225 11.6%	236 12.6%	▲4.6% (▲1.0p)
経常利益 (売上比)	996 15.3%	1,189 18.1%	▲16.2% (▲2.8p)	220 11.3%	224 11.9%	▲1.9% (▲0.6p)
当期純利益 (売上比)	534 8.2%	671 10.2%	▲20.5% (▲2.0p)	117 6.0%	118 6.3%	▲0.8% (▲0.3p)

※ 前年実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

まず、第3四半期9ヶ月累計の連結業績ですが、
 売上高6,520億円、前年同期比1.1%減、
 営業利益1,045億円、同15.3%減、
 経常利益996億円、同16.2%減
 当期純利益534億円、同20.5%減の、
 減収減益の結果となりました。

スライド4ページで要因をご説明いたします。

【連結】第3四半期(累計) 減収減益の要因

売上高 6,520億円 (前年同期比 ▲1.1%)

- ・ 国内ユニクロ事業 ▲237億円
- ・ 海外ユニクロ事業 150億円
- ・ グローバルブランド事業 6億円

売上高総利益率 52.0% (前年同期比 ▲0.2p)

- ・ 会計処理変更の影響を除いた実質ベースは▲2.1p低下
- ・ 国内ユニクロ事業では実質ベースで▲3.3p低下

売上高販管費比率 36.0% (前年同期比 +2.5p)

- ・ 会計処理変更の影響を除いた実質ベースは+0.5p上昇
- ・ 国内ユニクロ事業では実質ベースで+0.5p上昇

営業利益 1,045億円、営業利益率16.0% (前年同期比 ▲2.7p)

経常利益 996億円、経常利益率15.3% (前年同期比 ▲2.8p)

- ・ 円高に伴う為替差損45億円

売上高は6,520億円、前年同期比70億円の減収でした。減収の要因は、国内ユニクロ事業が237億円の減収となったことによります。海外ユニクロ事業は150億円の増収、グローバルブランド事業も6億円の増収となっております。

売上高総利益率は52.0%と、前年同期比0.2ポイント低下いたしました。ただし、会計処理変更の影響を除いた実質ベースでは、同2.1ポイントの低下となっております。この要因としては、国内ユニクロ事業において、粗利益率が実質ベースで同3.3ポイント低下したことによります。

販管費は前年同期比で138億円増えており、販管費比率は前年同期比2.5ポイント上昇いたしました。ただし、会計処理変更の影響を除いた実質ベースでは、同0.5ポイントの上昇となっております。国内ユニクロ事業では、販管費比率は実質ベースで同0.5ポイントの上昇となっております。

これらの結果、営業利益は1,045億円、営業利益率は16.0%と同2.7ポイント低下いたしました。また、経常利益につきましては996億円、経常利益率は15.3%と、同2.8ポイント低下いたしました。

営業外損失として、円高に伴う為替差損が45億円発生しております。これは株式会社ユニクロが海外ユニクロ事業向けに行っている立替金に関わるものが主なものです。

第3四半期(累計) グループ事業別実績

単位: 億円

		1Q~3Q (2010/9~2011/5)			3Q (2011/3~2011/5)		
		9ヶ月累計	前年実績	前年同期比	3ヶ月実績	前年実績	前年同期比
国内ユニクロ事業	売上高	4,821	5,059	▲4.7%	1,400	1,390	+0.7%
	営業損益	910	1,157	▲21.3%	207	233	▲11.2%
	(売上比)	18.9%	22.9%	▲4.0p	14.8%	16.8%	▲2.0p
海外ユニクロ事業	売上高	736	586	+25.7%	234	181	+29.4%
	営業損益	97	65	+49.6%	18	6	+202.8%
	(売上比)	13.2%	11.1%	+2.1p	7.8%	3.3%	+4.5p
グローバルブランド事業	売上高	944	937	+0.7%	306	307	▲0.3%
	営業損益	79	74	+6.3%	27	28	▲0.4%
	(売上比)	8.4%	8.0%	+0.4p	9.1%	9.1%	+0.0p

※ 前年実績も新カテゴリーに組替した数値を表示しております。

※ 各グループ事業の構成

国内ユニクロ事業: 株式会社ユニクロ(靴事業含む)

海外ユニクロ事業: 海外で展開しているユニクロ事業

グローバルブランド事業: セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジュー事業、キャビン事業

スライド5ページでは、各グループ事業別の売上高、営業利益を示しております。

1Q～3Q 減収減益

3Q(3ヶ月)は計画対比で売上高30億円、営業利益10億円下ぶれ

単位: 億円

	1Q～3Q (2010/9～2011/5)			3Q (2011/3～2011/5)		
	9ヶ月累計	前年実績	前年同期比	3ヶ月実績	前年実績	前年同期比
売上高 (売上比)	4,821 100.0%	5,059 100.0%	▲4.7%	1,400 100.0%	1,390 100.0%	+0.7%
売上総利益 (売上比)	2,372 49.2%	2,526 49.9%	▲6.1% (▲0.7p)	677 48.3%	678 48.8%	▲0.2% (▲0.5p)
販管費 (売上比)	1,461 30.3%	1,369 27.1%	+6.7% (+3.2p)	469 33.6%	445 32.1%	+5.4% (+1.5p)
営業利益 (売上比)	910 18.9%	1,157 22.9%	▲21.3% (▲4.0p)	207 14.8%	233 16.8%	▲11.2% (▲2.0p)

※ 前年実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

まず国内ユニクロ事業ですが、第3四半期9ヶ月累計の売上高は4,821億円、前年同期比4.7%減、営業利益910億円、同21.3%減と、減収減益の結果となりました。

上期の業績については、既に4月の決算説明会でご説明しておりますが、前年の売上高がヒートテックを中心に非常に好調だったことの反動や、12月に気温が高く推移したことによる冬物販売不振で、売上高は6.8%減収、営業利益は23.9%減益となっております。

この第3四半期3ヶ月間の売上高は0.7%の増収となったものの、営業利益は11.2%の減益となっております。

3月の震災、4月、5月の低温の影響で既存店売上高は減収、また、春物の売価変更が増えたこと、綿花を中心に素材価格が高騰した影響により粗利益率が低下したことで、営業利益は減益となりました。

第3四半期3ヶ月間は計画に対して、売上高で約30億円、営業利益で、約10億円下回っております。

項目ごとにつきましては、次のスライドでご説明いたします。

【国内ユニクロ事業】売上高の状況

3Q (3~5月) 売上高 1,400億円 (前年同期比 +0.7%)

○ ユニクロ直営店 2011年5月末 821店(FC店21店舗を除く)

前年同期末比 32店舗増

○ 既存店売上高 前年比 ▲1.9% (客数 ▲6.0%、客単価 +4.4%)

- ・3月 東日本大震災による大幅減収
- ・4月 中旬以降の気温の上昇に伴い、夏物販売が好調
新規のチノ&カーゴキャンペーン、UVカットキャンペーンが奏功
- ・5月 GW商戦、ユニクロ誕生感謝祭は好調に推移したものの、低気温により減収
- ・客単価アップの要因はチノ&カーゴ販売好調による一品単価の上昇、
サラファイン・シルキードライなど機能性インナー販売好調による買上点数の上昇

既 存 店 前年比増減率	2011年8月期					
	上期累計	3月	4月	5月	3Q	6月
売上高	▲9.9%	▲10.5%	+4.6%	▲1.6%	▲1.9%	+3.9%
客 数	▲5.0%	▲13.0%	▲1.2%	▲5.3%	▲6.0%	+0.4%
客単価	▲5.2%	+3.0%	+5.9%	+3.9%	+4.4%	+3.5%

※ FC店21店舗を除く

7

まず第3四半期3ヶ月間の売上高ですが、既存店売上高が1.9%の減収となりました、しかし直営店の店舗数が32店舗増加したことにより、全体の売上高は0.7%の増収となっております。

3月は東日本大震災により、大幅な減収となりました。

震災直後に160店舗が一時的に営業を停止いたしました。この多くの店舗は翌日に営業を再開し、3月末の一時閉店店舗は14店舗でした。7月14日現在、4店舗のみが一時閉店しており、このうち2店舗は近々に営業再開の予定となっております。

4月は中旬以降の気温の上昇に伴い、夏物販売が好調に転じたこと、今期初めてキャンペーンとして打ち出しを始めた、チノ&カーゴキャンペーンや、UVカットキャンペーンが奏功したことから、増収となりました。

5月はゴールデンウィーク商戦や月末に実施したユニクロ誕生感謝祭では順調な売上となりましたが、月を通して気温が低く推移したことから、若干の減収となりました。

この3ヶ月間では、客単価が4.4%上昇いたしました。この要因としては、チノ&カーゴの販売が好調だったことによる、一品単価の上昇、サラファイン・シルキードライなどの機能性インナーの販売が好調だったことによる、買い上げ点数の上昇によります。

なお、既にお知らせしているとおり、6月の既存店売上高は3.9%の増収となりました。

6月下旬から気温が上昇したことによる夏物衣料の好調、特にスーパークールビズ関連商品の販売が好調に推移したことがその要因です。

【国内ユニクロ事業】売上高総利益率

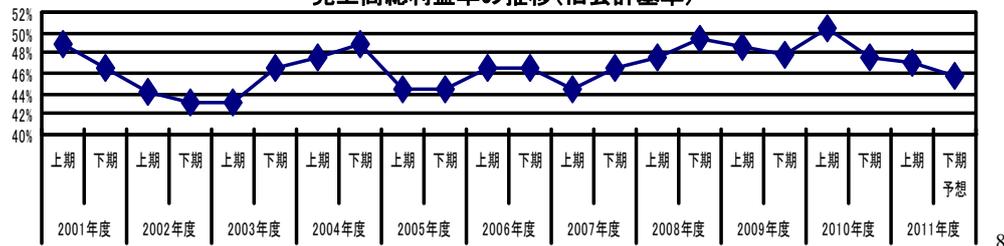
3Q (3~5月) 売上高総利益率 48.3% (前年同期比 ▲0.5p)
 (会計処理変更の影響を除いた実質ベースでは▲3.0p低下)

○ 綿花を中心とした素材価格の高騰による粗利率低下 ▲1.7p

○ 売価変更の増加による粗利率の低下 ▲1.3p

(うち、震災の影響などによる春物処分が計画比で増加 ▲0.7p)

売上高総利益率の推移(旧会計基準)



※ 原価算入していた商品倉庫～店舗間の運送費及び倉庫料を2011年8月期より販管費算入へ変更

次に売上高総利益率ですが、会計処理の影響を除いた実質ベースでは、前年同期比3.0ポイント低下いたしました。

当初より、綿花を中心とした素材価格の高騰により粗利率が1.7ポイント低下することを見込んでおりました。

また、売価変更の増加による粗利益率低下は前年同期比で1.3ポイントとなっております。

そのうち、震災の影響などによる春物処分が計画比で増加した影響は0.7ポイントとなっております。

【国内ユニクロ事業】販管費

^{3Q}
(3~5月) 売上高販管費比率 33.6% (前年同期比+1.5p)
(会計処理変更の影響を除いた実質ベースでは▲1.2p低下)

○経費削減すすめた結果、計画対比で約10億円削減

○対売上高比率は実質ベースで1.2ポイント低下

広告宣伝費 ▲0.7ポイント

人件費 ▲0.7ポイント

賃借料率 +0.2ポイント 既存店減収による影響

※ 原価算入していた商品倉庫~店舗間の運送費及び倉庫料を2011年8月期より販管費算入へ変更

売上高に対する販管費比率は、会計処理変更の影響を除いた実質ベースでは同1.2ポイントの低下となっております。

経費削減をすすめた結果、この第3四半期3ヶ月間でも、計画に対して、約10億円経費を削減することができました。

売上高比率では、広告宣伝費が0.7ポイント、人件費が0.7ポイントそれぞれ低下いたしました。賃借料率は0.2ポイント上昇しておりますが、こちらは既存店売上高が減収になった影響によるものです。

(3~5月) アジアを中心に大幅な業績拡大

- ・ 中国・香港: 既存店売上高の二桁増収続き、計画通り大幅な増収増益
- ・ 韓国: チノ&カーゴのTVCMにより、既存店売上高は二桁増
- ・ 台湾: 1号店の好調な売上継続、初年度は大幅黒字の見込み
- ・ シンガポール・マレーシア: 7店舗まで拡大、計画通りの順調な業績
- ・ 米国: グローバル旗艦店「NYソーホー店」の二桁増収続き、計画通り順調
- ・ フランス: グローバル旗艦店「パリ オペラ店」、計画通り順調
- ・ 英国、ロシア: 計画を下回る業績

単位: 億円

		1Q~3Q (2010/9~2011/5)			3Q (2011/3~2011/5)		
		9ヶ月累計	前年実績	前年同期比	3ヶ月実績	前年実績	前年同期比
海外ユニクロ事業	売上高	736	586	+25.7%	234	181	+29.4%
	営業損益	97	65	+49.6%	18	6	+202.8%
	(売上比)	13.2%	11.1%	+2.1p	7.8%	3.3%	+4.5p

次に海外ユニクロ事業ですが、9ヶ月累計の売上高は736億円と前年同期比25.7%増、営業利益は97億円と同49.6%増の大幅な増収増益を達成いたしました。この3ヶ月間の売上高は234億円と前年同期比29.4%増、営業利益は前年の6億円から18億円と大幅な増益となりました。

まず、中国・香港では、この3ヶ月間の既存店売上高は二桁増収が続き、計画通り、大幅な増収増益を達成いたしました。

韓国では、4月にチノ&カーゴのテレビCMによる広告宣伝活動が奏功し、既存店売上高も二桁増、大幅な増収増益となりました。

台湾1号店の売上高は、10月オープン以降も極めて高い水準を維持しており、初年度から大幅な黒字の見込みです。

シンガポール・マレーシアでは店舗網が7店舗まで拡大しており、計画通りの順調な業績を達成しております。

米国では、グローバル旗艦店「ニューヨークソーホー店」の二桁増収が続いており、計画通り、順調な業績となっております。この秋に出店予定のグローバル旗艦店「5番街店」と、メガストアの「34丁目店」のオープン準備は順調に進んでおります。

フランスでは、グローバル旗艦店「パリ オペラ店」の売上が好調で、計画通り、順調な業績を達成しております。

英国とロシアは、計画を下回る業績となっております。

^{3Q}(3~5月) セオリー事業、好調な業績続く

- ・ セオリー事業：米国セオリー事業の業績は大幅上ぶれ。
日本は震災の影響があったものの前年並の売上と利益
- ・ コントワー・デ・コトニエ事業：計画未達、減益
- ・ プリンセス タム・タム事業：ほぼ計画通りの業績
- ・ ジューー事業：旗艦店オープンによるブランド認知度向上により、
既存店売上高は増収に転じる。
旗艦店のオープンコスト負担により減益

単位：億円

		1Q~3Q (2010/9~2011/5)			3Q (2011/3~2011/5)		
		9ヶ月累計	前年実績	前年同期比	3ヶ月実績	前年実績	前年同期比
グローバルブランド事業	売上高	944	937	+0.7%	306	307	▲0.3%
	営業損益	79	74	+6.3%	27	28	▲0.4%
	(売上比)	8.4%	8.0%	+0.4p	9.1%	9.1%	+0.0p

※ 2010年8月期実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

11

グローバルブランド事業の9ヶ月累計の売上高は944億円と前年同期比0.7%増、営業利益79億円、同6.3%増となっております。

この3ヶ月間の売上高は、前年同期比0.3%の減収となっておりますが、これはキャビン事業が展開していた、全てのブランドが2月末までに休止したことによる影響です。

米国セオリー事業は、上期に引き続き、この3ヶ月間でも計画を上回る大幅な増収増益を達成しております。
日本のセオリー事業は、3月の震災の影響はございましたが、ほぼ前年並みの売上、利益となっております。

コントワー・デ・コトニエ事業の、この3ヶ月間の既存店売上高は若干の減収となっており、営業利益は計画未達、減益となっております。

プリンセス タム・タム事業はほぼ計画通りの業績となっております。

ジューー事業は、4月29日に池袋東口に旗艦店をオープンしたことにより、ブランド認知度が向上し、4月以降の既存店売上高は増収に転じております。ただし、今期オープンした心齋橋店と池袋東口店の旗艦店2店舗のオープンコストの負担により減益となっております。

【連結】2011年5月末 B/S

単位：億円

	2010年5月末	2010年8月末	2011年5月末	前年同期比
総資産	5,099	5,072	5,360	+261
流動資産	3,444	3,456	3,702	+258
固定資産	1,654	1,616	1,658	+3
負債	1,949	2,193	2,065	+115
純資産	3,149	2,879	3,294	+145

12

2011年5月末の連結バランスシートのご説明をさせていただきます。

総資産は5,360億円と、2010年5月末比で261億円増加いたしました。
これは流動資産が、同258億円、固定資産が同3億円増加したためです。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

現金・預金及び有価証券の増加 +80億円（2,079億円 ⇒ 2,160億円）

【国内ユニクロ事業】 営業キャッシュ・フローの増加によるもの

たな卸資産の増加 +40億円（716億円 ⇒ 757億円）

【国内ユニクロ事業】 ▲20億円減（508億円 ⇒ 487億円）

会計基準の変更の影響 ▲23億円

春物在庫コントロールなどによる影響 ▲27億円

新店32店舗増の影響 +15億円

夏物在庫の積み増し +15億円

【海外ユニクロ事業・グローバルブランド事業】

新規出店増、および売上拡大による在庫増 +60億円

まず、流動資産ですが、現金・預金及び有価証券の合計額は2,160億円と、前年同期末比で80億円増加いたしました。

これは、国内ユニクロ事業の営業キャッシュ・フローの増加によるものです。

たな卸資産は757億円と、前年同期末比40億円増加しております。

国内ユニクロ事業の5月末の在庫ですが、487億円と前年同期末比20億円減少しております。

減少の要因は、会計基準変更の影響で23億円、春物在庫コントロールなどによる影響が27億円となっております。

一方、増加の要因は新店32店舗増による影響が約15億円、夏物在庫の積み増しによる影響が約15億円となっております。

また、海外ユニクロ事業では店舗網が拡大したこと、セオリー事業およびジーユー事業では業績が拡大したことに伴い、在庫が増加しております。

	2010年8月期 第3四半期累計	2011年8月期 第3四半期累計	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+819	+610	
税金等調整前当期純利益	+1,174	+877	国内ユニクロ事業の利益貢献
減価償却費、のれんの償却額	+143	+198	
運転資金の増減額	▲71	▲92	売上債権、たな卸資産、仕入債務の増減の合計額
法人税等の支払い・還付	▲447	▲445	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲160	▲194	
有形固定資産の取得による支出	▲121	▲122	出店拡大に伴う投資
無形固定資産の取得による支出	▲23	▲62	システム投資
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲266	▲257	
配当金の支払額	▲202	▲213	一株当たり期末配当金115円、中間配当金95円の支払い
現金及び現金同等物の増加額	372	155	
現金及び現金同等物の期首残高	1,695	2,004	
現金及び現金同等物の期末残高	2,067	2,159	

第3四半期累計のキャッシュ・フローについてご説明させていただきます。

営業活動によるキャッシュ・フローは、国内ユニクロ事業の利益貢献などにより、610億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、194億円の支出となっております。支出の主な内訳としては、国内外のユニクロ事業をはじめとした店舗の増加に伴い、有形固定資産の取得で122億円、システム投資などにより、無形固定資産の取得で62億円となっております。

なお、連結の設備投資額は、第3四半期累計で251億円、うち国内ユニクロは90億円となっております。

また、財務活動によるキャッシュ・フローは、257億円の支出となっております。支出の主な内訳としては、配当金の支払額213億円などです。

以上の結果、2011年5月末における現金及び現金同等物の期末残高は2,159億円となりました。

業績予想の修正なし

	2010年8月期		2011年8月期	
	通期実績		業績予想	前期比
売上高 (売上比)	8,148 100.0%		8,360 100.0%	+2.6%
売上総利益 (売上比)	4,208 51.7%		4,325 51.7%	+2.8% +0.0p
販管費 (売上比)	2,885 35.4%		3,110 37.2%	+7.8% +1.8p
営業利益 (売上比)	1,323 16.2%		1,215 14.5%	▲8.2% ▲1.7p
経常利益 (売上比)	1,237 15.2%		1,165 13.9%	▲5.8% ▲1.3p
特別損益	▲68		▲120	+74.2%
当期純利益 (売上比)	616 7.6%		600 7.2%	▲2.7% ▲0.4p

単位：億円

15

ここからは、2011年8月期の業績予想についてご説明いたします。

通期の連結売上高は8,360億円、営業利益は1,215億円、経常利益は1,165億円とそれぞれ予想しており、

4月7日に発表いたしました業績予想からの修正はございません。

下期は増益を予想

単位: 億円

	2010年8月期		2011年8月期			
	通期実績	下期実績	通期予想	前期比	下期予想	前年同期比
売上高 (売上比)	6,151 100.0%	2,482 100.0%	6,080 100.0%	▲1.2%	2,658 100.0%	+7.1%
売上総利益 (売上比)	3,026 49.2%	1,178 47.5%	2,995 49.3%	▲1.0% (+0.1p)	1,299 48.9%	+10.3% (+1.4p)
販管費 (売上比)	1,749 28.4%	825 33.3%	1,905 31.3%	+8.9% (+2.9p)	913 34.4%	+10.7% (+1.1p)
営業利益 (売上比)	1,277 20.8%	352 14.2%	1,090 17.9%	▲14.6% (▲2.9p)	386 14.5%	+9.5% (+0.3p)

※ 前年実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

16

国内ユニクロ事業の業績予想についてですが、こちら4月7日に発表いたしました数値から修正はございません。

実績でご説明したとおり、第3四半期3ヶ月間では計画に対して売上高で約30億円、営業利益で約10億円下ぶれしております。

しかし、気温の高まりに伴って、夏物販売が好調に推移していること、スーパークールビズ関連商品が特に好調であることから、下期の営業利益は386億円、前年同期比9.5%増と増益を達成する見込です。

海外ユニクロ事業：大幅な増収増益を予想
グローバルブランド事業：増益基調続く

単位：億円

		2010年8月期	2011年8月期	
		通期実績	業績予想	前期比
国内ユニクロ事業	売上高	6,151	6,080	▲1.2%
	営業損益 (売上比)	1,277 20.8%	1,090 17.9%	▲14.6% ▲2.9p
海外ユニクロ事業	売上高	727	1,000	+37.4%
	営業損益 (売上比)	63 8.7%	100 10.0%	+57.1% +1.3p
グローバルブランド事業	売上高	1,252	1,250	▲0.2%
	営業損益 (売上比)	78 6.3%	85 6.8%	+8.3% +0.5p

※ 前年実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

17

海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業ともに、通期の業績予想の修正はございません。

海外ユニクロ事業は大幅な増収増益を予想しており、グローバルブランド事業においても、増益基調が続く見込です。

なお、配当金につきましても従来の予想から変更はございません。
 既に実施した中間配当金95円とあわせまして、通期の1株あたり配当金は180円を予想しております。

2011年9月 タイ 1号店
 台北 明曜百貨店(グローバル旗艦店)
 2011年秋 ニューヨーク 5番街店(グローバル旗艦店)
 ソウル 明洞店(グローバル旗艦店)
 ニューヨーク 34丁目店(メガストア)



(ニューヨーク 5番街店 グローバル旗艦店)



(ニューヨーク 34丁目店 メガストア)

最後に、この秋のグローバル旗艦店、新規出店国への展開についてご説明します。

まず、新しい国への展開ですが、この9月にタイに1号店をオープンする予定であります。

また、グローバル旗艦店を次々と世界の大都市に出店してまいります。9月には台北(タイペイ)にグローバル旗艦店をオープンし、次にニューヨーク5番街、ソウル 明洞(ミョンドン)にそれぞれグローバル旗艦店をオープンします。ニューヨークにおいては、グローバル旗艦店だけではなく、34丁目にもメガストアをオープンする予定です。来期以降の海外ユニクロ事業は出店を加速し、さらなる事業の拡大を目指してまいります。

以上で私からの説明を終わります。

ありがとうございました。

	配当金額(1株当り通期)		
	中間	期末	通期
2009年8月期	75円	85円	160円
2010年8月期	115円	115円	230円
2011年8月期(予想)※	95円	85円	180円

※ 業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、配当金額を変更することがあります。

連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位：店舗】	10年8月	2011年8月期								
		3Q実績(2011/5末)				通期 予想(2011/8末)				
		期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	944	96	27	+69	1,013	106	30	+76	1,020	
国内ユニクロ事業:	808	57	23	+34	842	60	24	+36	844	
直営店	788	56	23	+33	821	59	24	+35	823	
大型店	102	26	0	+26	128	27	0	+27	129	
標準店等	686	30	23	+7	693	32	24	+8	694	
FC	20	1	0	+1	21	1	0	+1	21	
海外ユニクロ事業:	136	39	4	+35	171	46	6	+40	176	
中国(除く香港)	54	18	1	+17	71	24	1	+23	77	
香港	13	2	1	+1	14	3	1	+2	15	
台湾	-	1	0	1	1	1	0	+1	1	
韓国	48	11	0	+11	59	11	1	+10	58	
シンガポール	3	2	0	+2	5	2	0	+2	5	
マレーシア	-	2	0	+2	2	2	0	+2	2	
英国	14	1	1	0	14	1	2	▲1	13	
米国	1	0	0	0	1	0	0	0	1	
フランス	2	0	1	▲1	1	0	1	▲1	1	
ロシア	1	2	0	+2	3	2	0	+2	3	
靴事業	90	0	16	▲16	74	0	90	▲90	0	
ジーユー事業	115	40	6	+34	149	40	7	+33	148	
キャビン事業	197	0	197	▲197	0	0	197	▲197	0	
セオリー事業※	326	59	11	+48	374	61	11	+50	376	
コントワー・デ・コトニエ事業※	371	19	3	+16	387	19	3	+16	387	
プリンセス タム・タム事業※	160	1	4	▲3	157	1	4	▲3	157	
※FC店を含む	総 合 計	2,203	215	264	▲49	2,154	227	342	▲115	2,088

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2011年8月期 第3四半期累計(9ヶ月平均)	82.8	112.8	131.4	12.5	7.3
2010年8月期 第3四半期累計(9ヶ月平均)	90.9	126.3	142.5	13.4	7.8
2011年8月期 通期予想レート(10/8時点)	85.0	110.0	130.0	13.0	8.0
2010年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	89.8	122.1	140.2	13.2	7.7

設備投資 減価償却費 のれん償却額

単位：億円

	設備投資	減価償却費	のれん償却額
2011年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	251	148	49
2010年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	199	87	56
2011年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	280	190	65
2010年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	280	122	75

※ 2011年8月期の減価償却費予想及び実績には、固定資産減価償却の一括償却分40億円を含む
これに対応する1Q3ヶ月間累計の減価償却費は75億円、2Q6ヶ月間累計の減価償却費は110億円

グループ事業：各カテゴリーに含まれる事業

2010年8月期まで

	含まれる事業
国内ユニクロ事業	日本で展開するユニクロ事業
海外ユニクロ事業	海外で展開するユニクロ事業
国内関連事業	ジーユー事業
	靴事業
	キャビン事業
グローバルブランド事業	セオリー事業
	コントワー・デ・コトニエ事業
	プリンセス タム・タム事業

2011年8月期以降

	含まれる事業
国内ユニクロ事業	日本で展開するユニクロ事業
	靴事業★
海外ユニクロ事業	海外で展開するユニクロ事業
グローバルブランド事業	セオリー事業
	コントワー・デ・コトニエ事業
	プリンセス タム・タム事業
	ジーユー事業★

※ ㈱キャビンは2010年9月1日よりリンク・セオリー・ジャパンに合併。2011年8月期以降におけるキャビン事業の業績は、グローバルブランド事業に含めております。

※ 靴事業は2010年4月1日より㈱ユニクロに合併

★ カテゴリーを変更した事業

【国内ユニクロ事業】業績予想の前提

	2010年8月期	2011年8月期予想 (旧基準※)		2011年8月期予想 (新基準)	
	実績(旧基準)	業績予想	前期比	業績予想	前期比
売上高	6,151 億円			6,080 億円	▲1.2%
既存店前年比(通期) (ユニクロのみ)	+4.7%			▲5.0%	▲9.7p
上期(実績)	+13.1%			▲9.9%	▲23.0p
下期	▲6.4%			+3.0%	+9.4p
売上総利益率(通期)	49.2%	46.8%	▲2.4p	49.3%	+0.1p
上期(実績)	50.4%	47.0%	▲3.4p	49.5%	▲0.9p
下期	47.5%	46.4%	▲1.1p	48.9%	+1.4p
販管費比率(通期)	28.4%	28.6%	+0.2p	31.3%	+2.9p
上期(実績)	25.2%	26.3%	+1.1p	29.0%	+3.8p
下期	33.3%	31.7%	▲1.6p	34.4%	+1.1p

※ 新基準:従来、原価算入していた商品倉庫～店舗間の運送費及び倉庫料を
2011年8月期より販管費算入へと変更

特別損失 ▲120億円

会計処理の変更に伴う特別損失 合計 96億円

物流費一括償却 ▲26億円

物流費・商品倉庫料の計上基準を統一したことに伴い、2010年8月末時点の在庫に含まれる物流費・商品倉庫料の相当額を一括償却

固定資産の減価償却費一括償却 ▲40億円

固定資産の減価償却費計上基準をグループで統一したことに伴い、過去分を一括償却

資産除去債務過去分一括償却 ▲29億円

資産除去債務会計基準の適用に伴い、過去分を一括償却

その他の特別損失 合計 24億円

事業整理損失引当金繰入額 ▲8億円

靴販売専門店の閉店に伴うもの

災害による損失 ▲7億円

東日本大震災に伴うもの